

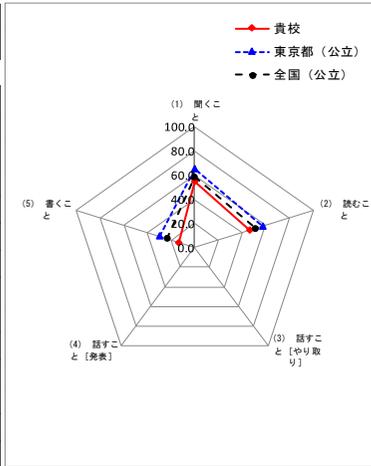
・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。
 ※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降4月28日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

集計結果

対象生徒数		江戸川区立松江第二中学校	東京都（公立）	全国（公立）
		109	71,486	893,528

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			40	52	45.6
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	54.4	64.7	58.4
	(2) 読むこと	6	46.9	57.2	51.2
	(3) 話すこと【やり取り】	0			
	(4) 話すこと【発表】	0			
	(5) 書くこと	5	13.4	29.6	23.4
評価の観点	知識・技能	9	44.5	57.9	51.5
	思考・判断・表現	8	34.3	44.8	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	50.7	61.0	54.8
	短答式	3	19.0	37.6	30.1
	記述式	2	5.0	17.6	13.5

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



＜現状把握＞

- ・東京都（公立）の平均正答率に比べて、全体的に10%ほど低い平均正答率となっている。
- ・特に（5）書くことの正答率が都平均に比べ16%低く、Writing活動に関して課題があることがわかる。
- ・また、短答式の問題や記述式の問題の正答率が低いことから、長く書くWriting問題だけでなく、英語を自信をもって書くということ自体に課題がある。
- ・また、知識技能の問題も東京都の平均に比べて13%低い。このことから、語彙の少なさや文法に関する知識がWriting活動にも影響していると考えられる。

＜指導改善のポイント＞

- ・授業内でのSpeaking活動に加えて、Writing活動も取り入れるなど、いろいろな形でアウトプットすることを促し、包括的な学習活動を意識する。
- ・Small Talkなどの帯活動を通して、アウトプットするために必要な語彙や文法の定着を図る。
- ・パフォーマンステストの実施などを通して、ターゲットとなる語彙や文法の定着に加え、英語を「話すこと」または「書くこと」に関して自信をもって行うことができるよう指導する。
- ・単元テストなど、一定期間での問題演習を取り入れ、授業で学んだ知識とそれに対する問題に解答することへのつながりを持たせる。

